平成29年度学校評価（中間評価）

平成29年９月まとめ

本年度の 重点目標	1　指導と評価の一体化を図るなど、学習指導方法の工夫改善に努め、知識の確実な定着とそれを活用する思考力・判断力・表現力の育成を図り、確かな学力を身に付けさせる。 2　望ましい勤労観、職業観を育成し、生徒の可能性を引き出した進路目標を設定させ、その実現に努める。 3　生徒に責任と義務を自覚させ、規範意識を高め、命と人権を重んじた生徒指導を実践する。 4　学校行事や部活動への積極的な参加を通して、他人を思いやる豊かな心の育成と健全な体の成長を促す。

項目(担当)	重 点 目 標	具体的方策	留意事項	中間評価
総　務　部	保護者との連携強化	1　PTA活動がより活性化するように事前準備を十分に行う。 2　保護者がPTA行事や学校行事に積極的に参加できるように広報活動を十分に行う。 3　行事に対する意見を大切にして、より充実した行事の運営を目指す。 4　メール配信システムを利用し、緊急時の情報の伝達に備える。	1　PTA役員会・理事会が円滑に運営できるように事前準備をする。 2　PTAの行事や学校行事について、文書やＨＰを利用してできるだけ早期に参加を呼びかける。 3　行事に対して頂いた意見を集約し、次回に有効に活用する。 4　メール配信システムが有効に活用できるように、登録を依頼する。	1　PTA役員、理事の方々に積極的にPTAの諸活動に参加していただき、円滑に運営できている。前期の活動として、PTA総会、ゼロの日の交通安全指導、文化祭チャリティーバザーなど、予定どおり順調に実施できた。 2　広報活動は保護者への文書やＨＰによって行い、迅速に情報を伝えられるように配慮している。 3　保護者からの御意見については集約し、担当の分掌で検討している。 4　４月中にメール配信システムの登録をお願いした。
教　務　部	授業規律を維持する中で、学力の伸長をはかる授業の実施	1　各学年と協力をしながら授業の様子を把握し、授業規律の維持向上に努める。 2　生徒が家庭学習の必要性を感じるような授業の実施を働きかける。 3　授業に対して、意欲の低い生徒に対しては、特別な支援を行う。	1　毎週設定されている学年主任者会や教科主任会を通して、各学年の授業の様子を知る。 2　授業に対しての予復習や課題の提示など、具体的に取り組み方を指示する。 3　各授業において、学習意欲の低い生徒を把握し、学年とは異なる立場で生徒を支援する。 4　履修状況報告書や、欠課過多報告書などを利用する中で、保護者にも協力を依頼する。	1　授業の様子については、問題となる報告はなく、良い状態で過ごせている。また、課題などへの取組については、学年によって多少ルーズな面が見受けられる。 2　１学期の成績不振科目を抱える生徒に対して、学習での頑張りを促したい。
生徒指導部	1　指導の定着	1　遅刻防止指導、身だしなみ指導などについて、全教員による指導の定着に向けた動きを展開する。 2　毎朝の昇降口、雨天時校門での立ち番指導を継続する。	1　「指導対応表」に基づく指導を行う。遅刻の繰り返しをなくすために、事後指導を徹底する。 2　生徒に「規律」を持たすために要所（授業・学年、全校行事等）での身だしなみ指導を徹底する。 3　HP等を利用して家庭との連携を図るとともに、「ハザードマップ」や「通学路注意マップ」を生徒に周知して、講話等も利用して啓発に努める。	1　「指導対応表」や申し合わせ事項に基づき、諸指導を展開している。 2　毎朝の昇降口立ち番指導、始業時等で身だしなみ指導を継続している。 3　９／３０現在の指導・報告件数　＊（　）は昨年度同期 指導を要する遅刻　１３４（７９） 交通事故　２６（２８） 地域からの御意見　６（９） 不審者からの被害　１０（２）
	2　生徒の安全確保	1　防犯に対する意識を高めるとともに通学路の危険箇所について周知をはかり、立ち番指導についてはPTAとも協力して行う。事故多発時には即座に現場指導を行う。 2　校門では傘さし防止指導を行う。		
	3　いじめ未然防止に係る取組の充実、いじめの早期発見、適切な事案対処	1　日頃から生徒に自分自身が集団で果たすべき義務、責任を理解させる。明確な善悪の価値基の下、毅然とした姿勢で日々の指導を行う。 2　日々の生徒観察、健康調査、いじめ、生活アンケート等での情報収集、事案対処に係る各組織の役割を具体化する。生徒、保護者にそれを周知する。	1　校内に明確な「正義」と「規律」を確立させる。 2　アンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について毎回検証を行う。 3　事案対処時の事実確認等、初動を丁寧かつ迅速に正確に行うことを心がける。 4　生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境づくりを行う。	1　担任会、学年主任者会、生徒指導部会等で生徒の情報を共有し、複数の教師が連携する体制を整えている。 2　些細な事案を見逃さないよう、生徒間トラブル等の完結後、追跡をやめない。

項目(担当)	重 点 目 標	具体的方策	留意事項	中間評価
進路指導部	1　望ましい勤労観、職業観の育成 2　将来を見据えた基礎力の育成	1　進路目標を具体化させる。 2　キャリア教育を充実させる。 3　必要な進路情報を必要に応じて提供する。 4　進路学習会・補習を充実させる。 5　模擬試験などの結果を分析し、有効に活用できるようにする。	1　生徒及び保護者に対し、説明会並びに講演会などを通じ、的確な進路情報を提供する。 2　総合的な学習の時間や、看護実習・保育実習などの体験実習を通じて、勤労観、職業観の育成を図る。 3　進路情報の収集・整理に努め、各学年・各教科に提供する。 4　生徒の進路意欲を高めるよう環境整備を図る。 5　生徒が学習活動の成果を模擬試験などで確認し、その後の学習につなげられるよう分析と指導を行う。	1　例年より生徒向けの説明会を増やし、多様化する現状について情報を提供することができた。 2　保育、看護だけでなく、医療系についても的確な判断がとれるよう、体験の機会を設けることができた。 3　大学入学共通テストや外部資格試験について情報など各教科で共有できるように努めた。 4　各教室の掲示物や進路閲覧室の利用を通して進路意識を高められるよう努めた。 5　模擬試験などの受験結果を分析し、各教科で役立てられるよう発信した。
保　健　部	1　校内美化活動の充実 2　教育相談の活性化と支援体制強化 3　防災意識の高揚	1　清掃用具の整備と美化委員の活動を活性化させる。 2　臨床心理士を活用し、教育相談委員会の開催を増やすとともに、内容を充実させる。 3　災害発生時における学校対応を周知させる。	1　新しい清掃用具の購入と、美化委員による定期的な美化活動を実施する。 2　臨床心理士と円滑に連携するとともに、教育相談委員会を活性化し、その情報を基に、当該生徒の支援体制に組織的に取り組む。 3　災害発生時の地域における学校の役割を把握しておくとともに、防災・減災意識の向上を図る。	1　随時、新しい用具を購入し、効率良く清掃できる道具を利用している。 2　カウンセラーの先生が来校したときには開いている相談室であるが、来校しないときは閉めたままになっているので利用しやすい状況を作っていきたい。 3　２学期始業式時に、代表生徒が２年継続で参加した防災セミナーでの学習内容について、全校生徒に発表する機会を設け、防災意識の向上に貢献した。
特別活動部	1　生徒の自主性の育成 2　福祉活動への積極的参加	1　文化祭や各種行事に主体的、意欲的に取り組ませ、自主性を育む。 2　福祉や環境に関する興味関心を持たせ、社会に貢献し、国際協力をする態度を養う。	1　生徒会サポーターを積極的に募集し、生徒会役員が中心となって、委員・係に対する丁寧な指導をし、意識を高め、文化祭や各種行事を通じ、全校生徒の主体的な活動を促し自主性を養う。 2　生徒会役員が中心となって広報につとめ、福祉やボランティアの意義、環境問題、国際協力などについて全校生徒に理解を深めさせ、ボランティア活動等に積極的に取り組ませる。書き損じハガキの回収、フィリピン路上児童救援募金をはじめ、様々な募金活動を通し社会に貢献する意識を高める。	1　生徒会役員が文化祭の準備・運営・会議等に積極的に取り組み、役員・係も主体的な活動を展開できた。企画のエントリーに偏りがあったものの、選考会の運営はスムーズにできた。展示企画が多く、リサイクル品を活用して教室発表が活況を呈した。芸術鑑賞会の会場は日進市民会館であったが、生徒会役員が駐輪場指導で活躍した。 2　生徒会役員により２００日間無事故無違反ラリーが提起され、呼びかけ・掲示物・放送等で広報に努めた。２学期以降に募金等の福祉的なボランティア活動が予定されている。
図　書　部	1　読書への関心と図書室利用の向上 2　委員会活動の活性化 3　視聴覚教育の向上	1　新入生オリエンテーションを実施する。 2　図書当番、お薦め本の執筆、第５回読書会の実施、ポップ作り、蔵書の整理などを行う。 3　視聴覚機器を整備し、視聴覚教室利用の活性化を図る。	1　新入生オリエンテーションは４月早期に実施する。また、月1回の「図書館便り」を発行して、貸出状況や新着図書の情報を効果的に掲載する。 2　図書委員の仕事を機能的に役割分担し、充実した広報を図る。生徒が楽しめる読書会を企画する。 3　機器の使い方をマニュアル化し、活用しやすいように工夫する。	1　新入生オリエンテーションは順調に実施することができた。例年、１年生の現代文の授業を、この時間に充てているが、入学して最初の１学期中間考査までの授業時間数が少ない中でのオリエンテーションの実施は、検証・考察検討が必要かもしれない。また、図書館便りも順調に発行することができた。 2　図書委員の仕事も滞りなく順調に実施でき、１学期の図書館主催行事である「ビブリオバトル」も開催することができた。 3　視聴覚室、視聴覚機器ともに稼働率は高く、十分活用されている。

項目(担当)	重 点 目 標	具体的方策	留意事項	中間評価
1　　年	1　基本的生活習慣の確立 2　基礎学力の定着 3　自主性を育てる	1　心と身体の健康に留意し、規則正しい生活を心がけさせる。 2　充実した授業を展開し、家庭学習の定着を図る。 3　自ら考え行動できる生徒の育成を図る。	1　欠席・遅刻をする生徒や様子が気になる生徒については職員間で連携を図り、常に声がけをするなど丁寧に対応する。 2　教室の環境整備は言うまでもなく、各教科において予復習や課題の提出について具体的な指示をする。 3　教員の助言の下、LTや学校行事を通じて生徒自身が多くの体験をし、次に活かすことを学ぶ機会を多く設ける。	1　入学当初から、生徒の様子について細かく情報交換を行い、心配される状況があれば丁寧に対応した。情報の共有については、担任会・学年会のみではなく、日常において職員間の連絡を密にするように努めた。 2　各教室の環境整備については、担任を通じて指導を徹底した。また、課題の未提出があれば、学年で個別に対応した。 3　文化祭などの学校行事では、生徒一人一人が係や役割を担い、活躍する機会をもった。また、こうした活動を通じてクラスが団結することができた。
2　　年	1　基本的生活習慣を維持させる。 2　自ら学び、自ら行動する力をさらに伸ばす。	1　学校中心の生活ができるように促す。 2　修学旅行・学校行事・部活動などに積極的に関わるように、さまざまな機会を設ける。 3　模擬試験を利用し、学習のきっかけとする。	1　様子が気になる生徒は、丁寧に声がけし、対応する。 2　修学旅行の準備に計画的に取り組ませ、帰属意識を高める一助とする。 3　模擬試験をきっかけに、大学入試を意識した自主学習に取り組ませる。	1　様子が気になる生徒については、担任を通して、担任会・学年会で情報を共有し、場合によっては個別に対応した。 2　修学旅行については、事前指導も含め、計画通りに実行している。 3　後期補習の申し込み状況から、大学入試を意識した取組ができている生徒が増えている。
3　　年	1　基本的生活習慣を維持させる。 2　より高い進路目標の設定と学力伸長を援助する。	1　規則正しい生活を心がけさせる。 2　規律ある授業を展開する。 3　家庭学習を定着させ、学力の伸長を図る。 4　進路目標を明確にさせ、達成させる。	1　様子が気になる生徒は、職員間で連携を図り、常に声がけをするなど　丁寧に対応する。 2　学習に集中できる環境作りをする。 3　模擬試験、補習・学習会などを利用して、進路目標を意識した学習をさせる。 4　全生徒の進路目標が達成できるよう、適切な助言をする。	1　担任会、学年会のみでなく、日常において職員間で生徒の様子について細かく情報交換した。様子が気になる生徒にはすぐに対応している。 2　教室等の環境整備に努め、落ち着いて学習できている。 3　模擬試験、補習・学習会などを利用し、進路目標に向かって学習している。 4　生徒の進路希望を把握し、適切に助言指導している。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		1　学習指導方法の工夫改善、多様な学習成果の評価手法を研究する。 2　望ましい勤労観・職業観をはぐくむキャリア教育の充実を図る。 3　いじめへの対応など命と人権を重んじた生徒指導を推進する。		